



TITLE:

成人男性に発見された異所性尿管瘤の1例

AUTHOR(S):

箕田, 薫

CITATION:

箕田, 薫. 成人男性に発見された異所性尿管瘤の1例. 泌尿器科紀要
1995, 41(3): 223-225

ISSUE DATE:

1995-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/115461>

RIGHT:

成人男性に発見された異所性尿管瘤の1例

自衛隊福岡病院泌尿器科 (医長: 箕田 薫)

箕 田 薫

ECTOPIC URETEROCELE IN A MALE ADULT:
A CASE REPORT

Kaoru Minoda

From the Department of Urology, Self-Defense Forces Fukuoka Hospital

A case of ectopic ureterocele in a 21-year-old male is reported. His chief complaint was right flank pain. We diagnosed ectopic ureterocele in right complete ureteric duplication with upper pole and right heminephrectomy was performed. Postoperative course was uneventful and ureterocele was markedly collapsed. The 10 reported cases with adult male ectopic ureterocele including our case in Japan are reviewed and some characteristics of this entity are discussed.

(Acta Urol. Jpn. 41: 223-225, 1995)

Key words: Ectopic ureterocele, Male adult

緒 言

異所性尿管瘤は本邦で150例を超える報告があるが、成人男性ではきわめて稀な疾患である。今回筆者は成人男性に発見された1例を経験したので報告する。

症 例

患者: 21歳, 男性

主訴: 右側腹部痛

既往歴・家族歴: 特記すべきことなし

現病歴: 1991年10月3日右側腹部痛で当院内科受診。腹部超音波検査にて左重複腎盂尿管を疑わせる所見あり当科を紹介された。

現症: 身長 173 cm, 体重 63 kg. 腹部, 外陰部に異常を認めなかった。

検査成績では, 検尿, 血液生化学検査に異常を認めない。

X線検査: 排泄性腎盂造影 (DIP) で左腎盂尿管および右下位腎所属腎盂尿管は造影良好だが右上位腎はわずかに造影され, 膀胱右側に陰影欠損像を認めた (Fig. 1)。経直腸的超音波検査で膀胱右側に尿管瘤を認めた (Fig. 2)。以上の所見から, 左不完全重複腎盂尿管症および右完全重複腎盂尿管に合併した尿管瘤疑いで1991年10月28日精査入院した。排尿時膀胱尿道造影で膀胱尿管逆流症は認めなかった。

膀胱尿道鏡所見・尿管瘤は膀胱頸部を越えて精丘までおよんでいたが瘤口は確認できなかった。右下位腎所属の尿管口は馬蹄形であり水を200cc注入すると尿管瘤は縮小したが膀胱壁外に憩室状に突出する所見はなかった。逆行性腎盂造影で右正常位置にある尿管口から尿管カテーテルを挿入すると下位腎のみ造影され



Fig. 1. DIP showed slight excretion at the upper region of the right kidney (arrow) and filling defect of the bladder (arrow head).

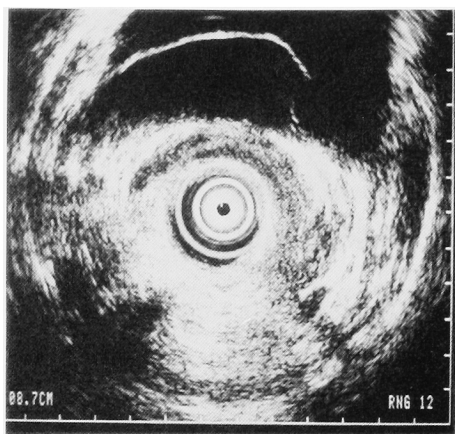


Fig. 2. Transrectal echography demonstrated ureterocele in the bladder.

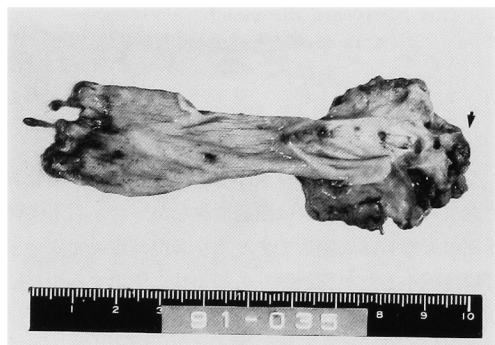


Fig. 3. The cut surface of resected specimen. Few renal parenchyma was observed macroscopically (arrow).

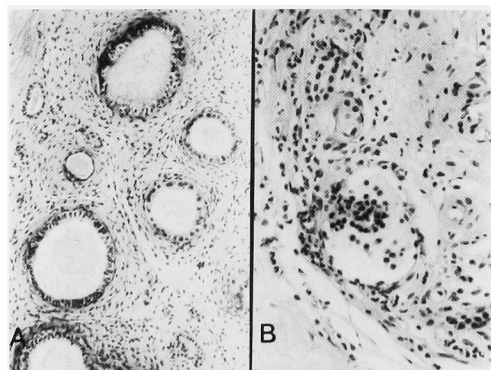


Fig. 4. Photomicrograph showing hypodysplastic kidney. A: Primitive duct was recognised and surrounded by concentric arrangement of spindle mesenchymal cells (HE stain $\times 200$). B: Glomerular differentiation (HE stain $\times 100$).

た。以上の所見から、右完全重複腎盂尿管および上位腎所属尿管の異所性尿管瘤と診断した。腎シンチグラムでは上極に RI の集積を認めなかったことから腎上極の機能はきわめて悪いと判断し平成3年11月26日右半腎摘除術を施行した。

摘出標本：腎実質は薄化し上極にわずかに存在するのみで腎盂尿管粘膜のところどころに出血斑を認めた (Fig. 3)。

病理組織学的所見：原始集合管が見られ紡錘形の間葉細胞が周囲を同心円状に取り囲んでいる (Fig. 4A) 糸球体の分化も認められ、腎低形成を示す部分 (Fig. 4B) も共存しており腎低異形成と診断した。

術後経過：術後2年9ヵ月現在尿管瘤は著明に縮小し排尿状態良好で尿路感染もない。

考 察

異所性尿管瘤は、Ericsson¹⁾ が初めて用いた言葉で尿管瘤を尿管末端の嚢状拡張としその瘤の一部が膀胱頸部を越えて尿道内に突出したものと定義した。Tanagho²⁾ は膀胱頸部ないし後部尿道に開口する尿管末端の嚢状拡張とし開口部を重視している。最近では Feldman³⁾ による完全重複腎盂尿管の上位腎所属尿管瘤はすべて異所性とするとして定義が拡大されている。本症例においては尿管瘤の開口部は確認できなかったが瘤の一部が精丘までおよんでいることから異所性尿管瘤と診断した。異所性尿管瘤の本邦報告例は小児での発見が多く成人での発見は本症例も含め30例と比較的少ない。30例のうちわは男性が10例、女性19例、性別不明1例で小児と同様に男性は少ない。成人男性の異所性尿管瘤本邦報告例を (Table) に示す。年齢は21歳から55歳におよんでいた。右側5尿管、左側5尿管と患側に左右差はみられなかった。主要症状は発熱および膿尿、血尿が3例に見られ、排尿困難が4例に見られたが、腹痛やまったく症状がなく腹部精査で偶然発見された症例もある。8例が完全重複腎盂尿管の上位腎所属尿管瘤であるが、単尿管およびY字尿管に発生した症例もある。

治療に関しては、尿管瘤所属腎の機能が良好例では、膀胱尿管新吻合術や瘤切除術、TUR-cele すなわち経尿道的瘤遠位部の小切開などの腎を温存する方法が行われる。本症例のように上位腎の機能が障害されていれば上半腎摘除術が一般的である。この場合一期的に瘤切除まで行うとする意見がある⁴⁾。一方、尿管瘤および壁内尿管を処理せずに単に尿管部分切除を行っただけでも術後合併症は認められなかったとの報告⁵⁾ もある。本症例では尿管瘤完全切除に伴う姉妹尿

Table 成人男子異所性尿管瘤本邦報告例

報告者	報告文献	年齢	患側	主要症状	瘤所属腎	治療
1 黒田ら (1970)	日泌尿会誌 61: 725	44	左	血尿、 排尿困難	完全重複腎盂尿管 上位腎	膀胱尿管新吻合、瘤切除
2 藤目ら (1980)	日泌尿会誌 71: 825	29	右	肉眼的血尿	完全重複腎盂尿管 上位腎	上半腎摘除、尿管部分切除、 瘤切除
3 福田ら (1980)	日泌尿会誌 71: 426	30	右	腎盂腎炎、 尿線中断	完全重複腎盂尿管 上位腎	腎尿管全摘除、瘤切除
4 島田ら (1983)	日泌尿会誌 74: 1003	38	左	排尿困難	単尿管	腎尿管全摘除、瘤切除
5 小谷ら (1984)	泌尿紀要 30: 1467	50	左	発熱、 混濁尿	完全重複腎盂尿管 上位腎	上半腎尿管切除、瘤切除、 尿管膀胱新吻合
6 松野ら (1984)	日泌尿会誌 75: 1444	30	右	発熱、 膿尿	完全重複腎盂尿管 上位腎	TUR-cele
7 小林ら (1987)	日泌尿会誌 78: 1465	55	右	右下腹部痛、 肉眼的血尿	完全重複腎盂尿管 上位腎	上半腎摘除、TUR-cele
8 菅野ら (1990)	日泌尿会誌 83: 139	30	左	なし	完全重複腎盂尿管 上位腎	TUR-cele、尿管膀胱新吻合
9 鈴木ら (1990)	日泌尿会誌 83: 1713	29	左	二段排尿 残尿感	Y字尿管	瘤切除
10 自験例		21	右	右側腹部痛	完全重複腎盂尿管 上位腎	上半腎摘除

管の血流障害や尿道外括約筋損傷に伴う合併症を避ける目的で、まず半腎摘除を行い合併症が出現したとき瘤に対する処置を行う方法を取った。術後合併症もなく経過良好であり、まず半腎摘除を行い合併症が出現したとき瘤に対する処置を行う方法で良いとわれわれは考えている。

結 語

21歳の男性に発見された異所性尿管瘤の1例を報告するとともに、本邦報告10例について若干の考察を加えた。

本論文の要旨は、第39回防衛衛生学会にて発表した。

文 献

- 1) Ericsson NO: Ectopic ureterocele in infants and children. A crinical study. Acta Chir Scand suppl. 197, 1954
- 2) Tanagho EA: Anatomy and management of ureterocele. J Urol 107: 729-736, 1972
- 3) Feldman S and Lome LG: Surgical management of ectopic ureterocele. Urology 17: 252-256, 1981
- 4) Kroovand RL and Perlmutter AD: A one-stage surgical approach to ectopic ureterocele. J Urol 122: 367-369, 1979

(Received on August 18, 1994)
(Accepted on December 12, 1994)